中小企業の多彩な魅力を学生が研究・発信

Dream Work Style Project
成長企業魅力発信グランプリ

経済産業省は3月6日に東京・港区の品川グランドホールおいて、「成長企業魅力発信グランプリ」を開催した。経産省では、2011年度、大学教育の早期の段階から学生と中堅・中小企業を結びつける「ドリームワークスタイル・プロジェクト」を展開している。大学教育と連携しながら、経営者によるリレー講義やインターンシップ、企業への取材などを実施しているが、これらを通じて中堅・中小企業と学生の出会いの場を創り出し、企業の魅力を伝え、職業選択時の視野拡大や働くことへの理解を促進させることが目的だ。

同グランプリはその一環として開催され、一次予選を通過した8大学の学生がインターンシップなどを通じて取材した成長企業の魅力をPRコンテンツにして発表した。それぞれの発表では写真や映像、音楽が駆使され「就職活動は大手企業に偏りがちだが、魅力のある中堅・中小企業も多い。就職に対する考え方が変わった」と成長企業の魅力が強調された。

受賞発表後、審査委員長である夏野剛氏によると、「どの発表も、とても熱心に企業を研究しており、審査は難航した」という。ここではその発表内容を、それぞれの発表に対して取材先企業から寄せられたコメントと合わせて紹介する。

最優秀賞・会場特別賞

日本のものづくりを守る
～久米繊維工業～

法政大学
洞山 香織 さん

取材企業：**久米繊維工業 株式会社**

団結と信頼のものづくりに感動

最優秀賞に輝いたのは「日本のものづくりを守る～久米繊維工業～」を制作した法政大学の洞山香織さん。久米繊維工業（東京都墨田区）の職場の雰囲気や仕事に打ち込む社員の魅力について、数多くの写真を駆使して発表した。洞山さんは最優秀賞のほかに、来場者が投票で選ぶ「会場特別賞」も獲得し、ダブル受賞という栄冠を手にした。

久米繊維工業は1935年創業の繊維メーカー。日本で初めてTシャツを作った企業であり、蔵元と連携しながら日本酒の魅力をTシャツで伝える「日本酒Tシャツ」も制作している。洞山さんは大学で環境やCSRを学んでいることから「積極的に環境問題に取り組む企業で、仕事に対する価値観を見つめたい」と、同社をインターンシップ先に選んだ。

インターンシップの期間はわずか3日間ではあったが、この間に体験したオリジナルTシャツの制作や、「日本酒Tシャツ」の展示イベント、社長や社員から聞いた話をまとめ上げた。同社での経験を通じて洞山さんは「みんなが同じ方向を向いて団結・信頼しながら仕事をしている」ことに大きな魅力を感じたという。

日ごろから電車の中で疲れたサラリーマンを見て働くことは辛そうだと感じていた洞山さんだったが、同社において「社員が生き生きと楽しく働いている姿を見て、働くということのイメージが変わった」と話す。

発表当日に洞山さんが着ていたTシャツは、同社こだわりの「丸胴づくり」という筒状の布を切って作ったもので、Tシャツの横にある縫い目がないのが特徴。洞山さんが企業に惚れ、作られた商品に惚れたことが、審査委員や会場に伝わり、最優秀賞に輝いた原動力となった。授賞式では「最優秀賞もうれしいが、魅力が会場に伝わったことが何よりもうれしい」と、大粒の涙を流して喜びを表現した。

洞山さんの受賞結果を受け取った同社の村上典弘氏も「自分のやりたい事が見えていない学生が多い中、洞山さんは当社での体験を通して自分と向き合うことができたようだ。これからもこの感覚を忘れないでほしい」と祝福した。

優秀賞

古来のまめの遺伝子

東北芸術工科大学
大場 麻美 さん　**佐藤 早苗** さん

取材企業：**株式会社 住吉屋食品**

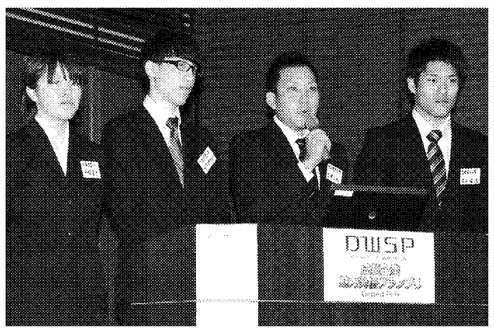
老舗技術と学生アイデア融合

東北芸術工科大学の大場麻美さんと佐藤早苗さんは、「古来のまめの遺伝子」というタイトルで優秀賞を獲得した。大場さんらは豆腐やこんにゃくなどを生産する住吉屋食品（山形県寒河江市）の魅力を、インターンシップで制作に携わった新聞広告や企業パンフレットを紹介しながら発信した。

新聞広告のキャッチコピーは「古来の　まめ　遺伝子。」。こつこつ働くまめな日本人の本質と遺伝子を掛け合わせて考えたという。パンフレットにはポケットを作り、東北の風景を載せたはがきを入れ、送る側と受け取る側の気持ちの共有化を図る工夫をした。また、同社の魅力は地域の食文化を発展させるため地元の厳選した素材にこだわった商品を作りだしていることだと感じ、同社と共同で豆腐を使ったチーズケーキ「やっこちゃん」を制作した。その中で、老舗企業でありながら学生の意見に真剣に耳を傾けてくれる担当者の姿勢に感動したという。

これに対し、同社の住吉久雄社長も「地域の良さを知って、目を輝かせて仕事をしてくれていた」と語っており、地域振興の輪はますます広がっていきそうだ。

優秀賞



農業革命 ～自産自消ができる社会～

京都産業大学
吉澤 大樹 さん　**西條 美波** さん
清水 維久馬 さん　**中尾 祥太郎** さん
中島 泰毅 さん　**恩田 裕貴** さん
山内 岳 さん

取材企業：**株式会社 マイファーム**

社会貢献と環境配慮に共感

もう一つの優秀賞は吉澤大樹さんをリーダーとした京都産業大学の男女総勢7人。プレゼンテーションを行った企業はマイファーム（京都市）。全国にある耕作放棄地を活用して「自産自消」を推進している会社で、作品タイトルもずばり「農業革命～自産自消ができる社会～」。

吉澤さんらは、西辻一真社長のインタビュー映像を交えて同社の魅力を紹介した。西辻社長の秘められた思いを表現するために農地で撮影し、わずか2分40秒の映像編集に30時間以上かかったという努力の結晶だ。

全国で約38万㌶ある耕作放棄地は埼玉県の面積に匹敵し、同社ではこのうち約38㌶を手がけている。農地のまま再生し、しかも食糧自給率の改善につながる取り組みは、吉澤さんらが考える魅力ある会社の定義、「多くの人を満足させる。社員の家族が喜ぶ。環境に配慮している」に合致していた。

この発表をうけた西辻社長も彼らに対して「私たちが考えている大切にしたい会社の軸が同じ」と評し、「彼らの様な若者に中小企業を知ってもらうことが今後、すばらしい日本を造る礎となるのでは」と、大きな期待を寄せている。

ノミネート作品

雇用を変える

慶應義塾大学　**坂和 貴之** さん

取材企業：**株式会社 アイエスエフネット**

より良い「美（きれい）」は社内から

岐阜大学　**三輪 藍香** さん　**長谷川 裕士** さん
大塚 しおり さん

取材企業：**ラブリークイーン 株式会社**

お目当てはアタシ?

横浜市立大学　**渡邉 大貴** さん

取材企業：**株式会社 スワン**

あなたと私の満足度

中京大学　**和田 恵梨香** さん　**柴田 早希** さん
鈴木 実穂 さん

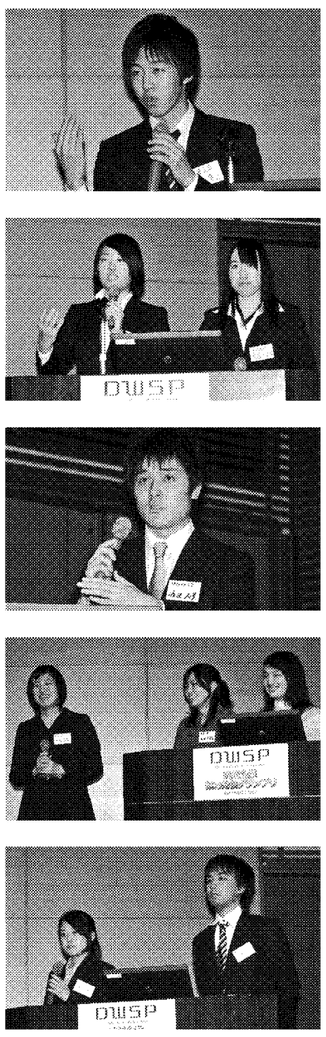
取材企業：**株式会社 パモウナ**

Do you know “Seeds Consultant”?

琉球大学　**本村 舞** さん　**山城 拓人** さん

取材企業：**有限会社 フタバ種苗卸部**

さまざまな視点で成長企業の魅力を追求



慶應義塾大学の坂和貴之さんが「雇用を変える」というタイトルで紹介したのは、システムエンジニアの育成・派遣を行うアイエスエフネット（東京都港区）。障がい者やフリーターなどを積極的に雇用し、働ける職場を創り出している。発表は渡邉幸義社長のインタビューを交えた映像を用いて行なった。「雇用があれば就労困難者という言葉はない」という渡邉社長の言葉に感銘を受け、「自分も社会に出たときは就労困難者をなくす取り組みをしたい」と結んだ。これに対し渡邉社長も「若い世代が雇用問題に興味を持ってくれたことが嬉しい」と喜んでおり、坂和さんにエールを送っている。

岐阜大学の三輪藍香さんら男女3人の混成チームは、テレビ撮影用のレディースフォーマルファッションの企画・製造・販売を手掛けるラブリークイーン（岐阜市）を取り上げた。タイトルは「より良い『美（きれい）』は社内から」。三輪さんらが台本を作成し、映像は岐阜テレビが担当した。三輪さんは「仕事が生き甲斐という経営者を知り、私もそういえる仕事をしたいと思った」という。映像はプロが担当しただけに申し分なかったが、夏野審査委員長からは「自分たちで撮った方が良かったのでは」との指摘もあった。しかし、同社の井上真典社長は「当社の魅力をわかりやすいシナリオで伝えてくれた」と語っており、その満足度は高いようだ。

横浜市立大学の渡邉大貴さんの作品は「お目当てはアタシ?」。従業員の半分は障がい者というベーカリーチェーンのスワン（東京都中央区）で働く人たちにインタビューして映像作品を仕上げた。渡邉さんは「障がい者を『助ける』という目線は間違い。一緒に働いて同じ目線に立てるようになった。これが本当のノーマライゼーションだと気づいた」と語り、来場者の共感を呼んだ。この発表に対して同社の海津歩社長は「希薄なもの求める若者が増えている中で、彼の様な若者が障がいのある人も包摂する社会を実現させるために必要」と渡邉さんに期待を寄せている。

中京大学の和田恵梨香さんら女性3人が「あなたと私の満足度」で魅力を伝えたのは、キャビネットや食器棚など家庭用家具の企画・製造・販売を手掛けるパモウナ（名古屋市港区）。和田さんらによると「消費者の立場に立って追求」「結果、実績を重視する」という「こだわり」が魅力であるとし、その点を存分にアピールした。夏野審査委員長は「プレゼンテーションに利益率など業績を盛り込んでいる」と高く評価し、この発表を受けた同社の西山美修氏も「企業には規模や知名度以外にも魅力がある事を知ってもらえた」と手ごたえを感じたようだ。

最後に登場したのは琉球大学の本村舞さんと山城拓人さん。「do you know "Seed's Consultant"?」と題してフタバ種苗卸部（沖縄県南城市）の魅力を発信した。種苗を単に売るのではなく、その育成に関する専門知識を提供することで農家同士の連携を深め、地域に根付く同社を見て地域貢献の大切さに気づいたと話す。

そんな同社の姿勢を本村さんらは「シーズコンサルタント」という言葉で表現し、肩書きとして提案した。これに対し同社の谷口真美子氏も、「若い人にも響く言葉で、社員も気に入っている」と語り、今後採用を検討するという。

審査委員

委員長

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
特別招聘教授
夏野　剛 氏

委　員

エン・ジャパン株式会社
代表取締役会長
越智 通勝 氏

特定非営利活動法人エティック
代表理事
宮城 治男 氏

朝日新聞 大阪本社
生活文化グループ記者
諸麦 美紀 氏

経済産業省 経済産業政策局
産業人材政策室長
水野 正人 氏